

2011 国際森林年

国内テーマ「森を歩く」



2011・国際森林年

国連による国際森林年の取組

第9回国連森林フォーラム会合（ニューヨーク、1月24日～2月4日）における閣僚級会合において、国際森林年が公式にスタート。

国連では、ロゴマークやウェブサイトの運用のほか、国際森林映画祭や記念切手の発行、森林に関わる功績者への顕彰、プロモーションビデオの作成を企画・実施しています。

このような国際的行事に我が国も参画して発信できるよう、国内での幅広い活動を呼びかけています。

国際テーマとロゴマーク

国際森林年の各国共通テーマは、「Forests for People（人々のための森林）」です。

この意味を伝えるため、右のロゴマークを各国とも使用しています。世界の森林の持続可能な経営、保全等における人間の中心的役割を称えています。

また、人々の居住環境や食料・水等の供給、生物多様性保全、気候変動緩和といった森林の多面的機能が人類の生存に欠かせないものであることを訴えています。



ロゴマーク使用の手続き

申請書に必要な事項を記入し、国連森林フォーラム（UNFF）にEメールで申し込む必要があります。

ただし UNFF との合意により、国も推進する「美しい森林づくり推進国民運動」を行っている「フォレストサポーターズ」に登録すると普及のための「情報としての使用」について日本語による簡易な手続きでロゴマークの取得が可能です。<http://www.mori-zukuri.jp/>

- 国連総会は2006年12月に2011年を「国際森林年」とすることを決議しました。
- 国際的な課題の一つである世界中の森林の持続可能な経営・保全の重要性に対する認識を高めることを目的としています。
- 米国ニューヨークの国連本部にある国連森林フォーラム（UNFF）が、国際森林年の実施の中心となっています。
- 我が国でも国際森林年という節目の年に、森林・林業に対する国民の認識を高めるような様々な活動を行っています。
- 特に東日本大震災の復興に貢献するという観点から、取組み内容を幅広く検討します。

「国際森林年」の意義

世界の森林の状況を見ると、1990年から2010年の20年間で日本の国土面積の4倍にもものぼる森林が消失しています（2010年国連食糧農業機関（FAO）の統計）。

1992年に開催された「地球サミット」を経て、生物多様性の減少、砂漠化の進行、地球温暖化等、地球規模での環境問題がクローズアップされるにつれ、国際的に森林の重要性が認識されるようになってきています。例えば、森林減少・劣化に由来する温室効果ガスの排出量は、世界の総排出量の約2割を占めるとされており、この排出を削減すること（REDD+）が気候変動対策を進める上で重要な課題となっています。

国際森林年に当たって我々が考えるべき課題は、国際的なことばかりではありません。我が国に目を向ければ、国土に占める森林率が世界第3位という豊かな森林を有していますが、林業の採算が合わないという経済的な理由から、森林の所有者の林業離れが進み、資源が十分に活用されないばかりか、必要な手入れが行われなくなってきている状況です。ですが、森林は、木材の生産、水源のかん養、国土の保全、地球温暖化防止や生物多様性の保全などの機能を持ち、これは私たちの日常生活に欠かせないサービスです。

このため、その機能の発揮、さらには山村地域における雇用の確保にも貢献する林業をなんとしても活性化する必要があります。また、山村社会の変化とともに野生生物の生態系のバランスが変わり、森林病害虫や野生鳥獣による森林や人里への被害が増加していることへの対応も重要です。

このような状況を踏まえ、昨年6月に閣議決定された「新成長戦略」において、国は森林・林業再生プランを21の国家戦略プロジェクトの一つに位置づけました。今年「国際森林年」は「森林・林業再生元年」とも位置づけられます。

我が国としては、「国際森林年」を契機に、豊かな森を守り育てていくこと、またそのためには一人ひとりが行動することが重要であることへの理解を深めたいと考えています。そして具体的な行動に結び付けられるよう、様々な機会をとらえて発信して参ります。同時に、自治体、団体、企業や市民の皆さんによる活動も各地で企画・実施されています。皆さんが、これらのイベントに参加されることも大きな一歩となります。私たち一人ひとりが国内・海外の森を元気づける活動の主役なのです。

林野庁

国際生物多様性年とのリンク

2010年は国際生物多様性年でした。10月に名古屋市で生物多様性条約COP10会合が行われ、12月には金沢市において国際生物多様性年クロージング(閉年)セレモニーが開催され、国際森林年へのブリッジング(橋渡し)企画が行われました。



我が国における取組みの方向

～東日本大震災復興に向けて～

各種行事において、地方自治体やNGOと連携して義援金等を受け付けるブースの設置、さらには関係者による復興に向けての活動宣言や応援メッセージの表明、国産材を使った復興住宅の整備の推進、防災のための海岸林の植樹事業などを国際森林年の取組として検討し、震災復興に役立てていきたいと考えています。

4月14日に開催された第2回国内委員会では、委員の方々の豊富な経験に基づき、復興に向けた様々な提案がありました。



5月20日発売の記念切手

国際森林年子ども大使

ミュージカル「葉っぱのフレディ」

子役の皆さん20名を3月8日に国際森林年子ども大使に任命しました。生命の尊さと循環をテーマにした作品を演じる彼らに力強く協力してもらっています。



◇ 我が国における国際森林年のテーマとねらい



「森を歩く」というテーマは森林に対する国民の理解の入口として、誰もが容易に参加できる具体的な行動を提案するものです。国民が森を訪れることにより、林業を含む地域産業活性化への波及をも意図しています。また、森林・林業再生プランの推進に当たり、関係者自らが現場の森林を歩き、現状を体感することも求めています。

「森林・林業再生元年」を契機に、未来に向かって豊かな森を引き継ぎ、森に関わる人を育み、暮らしの中で「木づかい」が広がるよう期待しています。その思いを込めて「未来に向かって日本の森を活かそう」というサブテーマを添えております。

◇ 取り組み体制

- 国連の求めに応じて、各界の有識者の方方で国内委員会を組織し、その提言をもとに林野庁が我が国の窓口となって取り組みを推進し、日本の取り組みを世界に発信しています。
- 林野庁のホームページに情報発信プラットフォームを設置し、国際森林年に関する情報をまとめて国内の皆さんに発信しています。

2011 国際森林年情報発信プラットフォーム

<http://www.rinya.maff.go.jp/j/kaigai/2011iyf.html>

- ・ 国際森林年の概要
- ・ イベントカレンダー
- ・ プレスリリース
- ・ 国内委員会による検討の状況
- ・ 参考資料(ロゴマーク使用ガイドライン等)
- ・ 関係機関へのリンク 等

◇ 重点的に進めていくこと

民間セクター、新聞やテレビといったマスメディアや、各種イベントとの連携を通じて、

【日本の次世代のために】

- 森林・林業再生プランの実施元年として弾みをつけて推進
- 森林・木材に対する認識の向上(特に国産材製品を利用することの意義を訴求)
- 緑の少年団、森林ボランティアなどの活動について顕彰、紹介、PR
- 企業と連携した森林づくり活動の推進、森林の大切さや森林を歩くことを広く普及
- 水に関する企業や水道事業者が森林保全を行っている、豊かな海を創る観点から森林保全を進めている、森を手入れすることで生物多様性を保全している等の取り組みを顕彰、紹介、PR
- 地元で里山を保全し、農地を守る人々を支援

【世界の森林のために】

- 途上国における炭素排出抑制(REDD+)のための活動や植林活動を推進
- 国際交流の推進



林野庁

計画課 海外林業協力室
担当：大川、市川、石飛
tel 03-3591-8449
fax 03-3593-9565